

富山湾における海棲哺乳類の記録(2020年)

著者	南部 久男, 西尾 正輝, 川上 僚介, 田島 木綿子, 山田 格
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	45
ページ	69-71
発行年	2021-07-01
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=2026

短 報

富山湾における鯨類の記録 (2020年)

南部 久男¹⁾, 西尾 正輝^{2), 4)}, 川上 僚介^{3), 4)}
田島 木綿子⁵⁾, 山田 格⁵⁾

- ¹⁾ 富山市科学博物館登録ボランティア 939-8084
富山市西中野町一丁目8-31
²⁾ 氷見市教育委員会 935-8686 富山県氷見市鞍川1060
³⁾ NPO法人Bioクラブ 935-0113 富山県氷見市惣領1927
⁴⁾ ひみラボ水族館 935-0113 富山県氷見市惣領1927
⁵⁾ 国立科学博物館動物研究部 305-0005 茨城県つくば市
天久保4-1-1

Records of Cetaceans in Toyama Bay, Sea of Japan, 2020

Hisao Nambu¹⁾, Masaki Nishio^{2), 4)},
Ryosuke Kawakami^{3), 4)}, Yuko Tajima⁵⁾
and Tadasu K. Yamada⁵⁾

- ¹⁾ Toyama Science Museum volunteer, 1-8-31
Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan
²⁾ Board of Education of Himi City, 1060 Kurakawa,
Himi-shi, Toyama 935-8686, Japan
³⁾ Specified Nonprofit Corporation Bio Club, 1927
Soryo, Himi-shi, Toyama 935-0113, Japan
⁴⁾ Himi-lab Aquarium, 1927 Soryo, Himi-shi, Toyama
935-0113, Japan
⁵⁾ National Museum of Nature and Science, Department
of Zoology, 4-1-1 Amakubo, Tsukuba-shi, Ibaraki 305-
0005, Japan

1. はじめに

富山湾（主に富山県側）の海棲哺乳類（鯨類及び鰭脚類）については筆者らにより、1999年から漂着調査等が継続的に行なわれている（南部, 2009; 南部ら, 2000, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2010, 2011, 2012, 2013, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020; 関ら, 2005）。本稿では2020年に富山湾で確認された鯨類について報告する。なお、能登半島沖で、カマイルカの大きな群れが発見されており（北陸朝日放送公式ページ, 2020. 4. 10.），合わせてその出現状況を報告する。

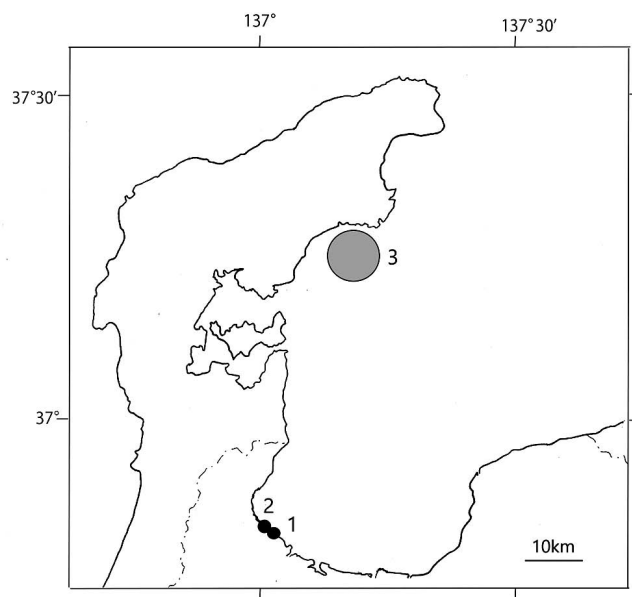


図1 2020年の富山湾における鯨類の確認地点。
1, 高岡市太田; 2, 氷見市柳田; 3, 能登町沖（推定）。

2. 方法

鯨類の漂着については、情報を得次第、現地調査を行い、体長の計測、体表から観察できる損傷状況の確認、写真撮影等を行った。関係機関からの情報収集を行い、インターネット（YouTube）からも情報を得た。

3. 結果

2020年に富山湾で確認した鯨類は、マイルカ科のカマイルカであった。

カマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens*

1 例目

【発見日】2020年4月14日。住民発見。

【発見場所】高岡市太田松太枝浜（図1-1, 図2）

【現地調査】4月14日、南部現地調査。

【発見状況】体長164 cmのオス。波打ち際から離れた砂浜に横たわっていた。腹部や頭部左側から背面側にかけ、穴やえぐられた跡が見られた。これらは人為的な跡の可能性はある。

【備考】富山県高岡土木センター工務第二課海岸班から情報を得た。

2 例目

【発見日】2020年5月20日。市民から氷見市水産振興課に連絡があった。

【現地調査】5月20日、西尾、川上現地調査。

【発見場所】氷見市柳田泉川左岸の島尾海岸（図1-2, 図3）

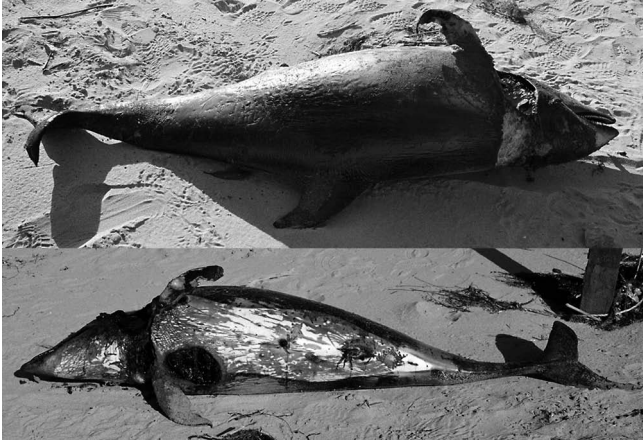


図2 カマイルカのオス。高岡市太田。2020年4月14日。
上、背側。下、腹側。

【発見状況】体長192 cmのオス。砂浜の波打ち際に横たわる。右腹部は裂け、内臓や肋骨がむき出しになっていた。裂けた痕は人為的な可能性がある。

【備考】氷見市水産振興課から情報を得た。

3 例目

2020年3月下旬、石川県輪島市の漁師により石川県能登町宇出津沖（図1-3）で大きなイルカの群れが撮影された（北陸朝日放送公式ページ，2020.4.10.）。映像には、数百頭のイルカが勢いよく海面を飛び出しながら遊泳していた。背景に立山連峰が写っていることから、東へ向かっていると考えられた。船の周りを遊泳する9個体程のイルカは、後方が白い鎌状の背ビレや体の模様から、カマイルカと同定された。群れもカマイルカと推定された。

4. 考察

2020年に確認された鯨類は富山湾既知種のカマイルカだけであった。富山湾ではカマイルカは下記に述べるように、2月から7月の範囲で死亡漂着個体が記録され、今回記録された2個体は5月に漂着し、既知の確認月の範囲に含まれる。漂着場所も既知の市町の海岸であった。

2002年から本報告の2020年まで、富山湾（富山県側）に漂着した種が判明している鯨類を個体数の多いの順にあげると、カマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens*（マイルカ科）34件34個体、ミンククジラ *Balaenoptera acutorostrata*（ナガスクジラ科）8件8個体（頭骨だけでも含む）、ハナゴンドウ *Grampus griseus* 6件6個体、ハンドウイルカ *Tursiops truncatus*（マイルカ科）3件3個体、イシイルカ *Phocoenoides dalli*（ネズミイルカ科）3件3個体（内イシイルカ型2個体、不明1個体）、ハセイルカ *Delphinus* sp.（マイルカ科）1件1個体、オウギ

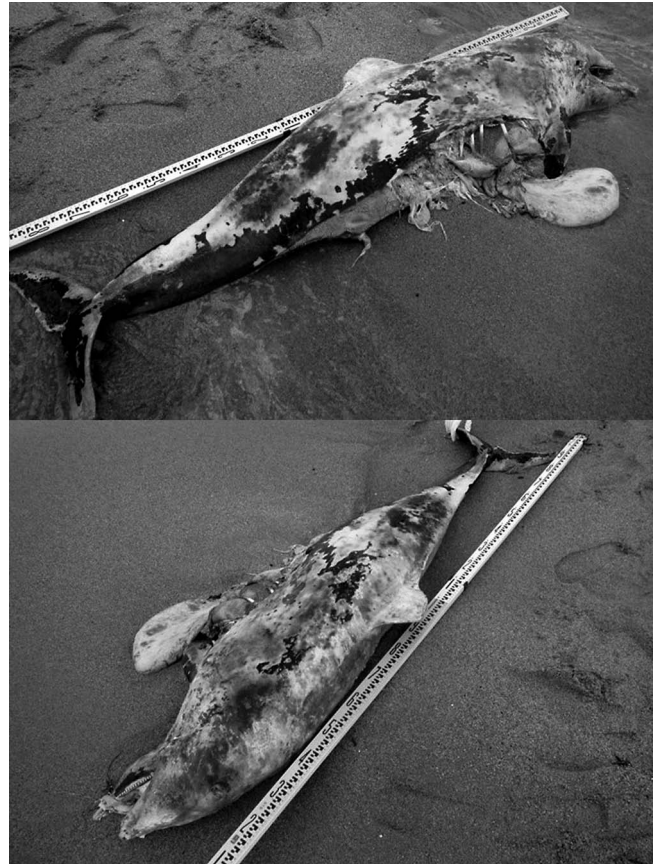


図3 カマイルカのオス。氷見市柳田。2020年5月20日。
上、腹側。下、背側。

ハクジラ *Mesoplodon stejnegeri*（アカボウクジラ科）1件1個体である。

最も多いカマイルカの漂着状況の概要は次の通りである。2002年から2020年にかけて、34件、34個体のカマイルカの漂着があり、同じ場所、同じ日に複数頭の漂着は見られず、全て死亡個体であった。地域別では、富山県西部24個体（氷見市13個体、高岡市11個体）、富山県中央部3個体（射水市1個体、富山市2個体）、富山県東部7個体（魚津市3個体、黒部市3個体、入善町1個体）で、富山県西部が全漂着個体の71%を占める。

漂着月の内訳は、漂着後かなり日数を経て乾燥し皮と骨だけになっている3個体を除く31個体では、2月（1個体）、3月（2個体）、4月（10個体）、5月（11個体）、6月（6個体）、7月（1個体）であり、4～6月が全漂着個体の87%を占める。7月の個体は2010年7月4日に射水市の海岸に漂着し、かなり腐敗しており（南部ら，2011）、死亡時は6月と思われる。

雌雄が明らかな個体は25個体（オス17個体、メス8個体）であった。吻の破損や尾の欠損が見られない個体の体長を、中央値（個体数、最小-最大；単位cm）で示すと、オス171（N=9，85-218）、メス181.5（N=7，108-213）

であった。オスの最小個体は85 cm (2010年 5 月30日高岡市漂着；南部ら, 2011), メスの最小個体は108 cm (2005年 6 月21日氷見市漂着；南部ら, 2006) であった。岩崎 (1997) は日本近海で確認されたカマイルカの出産時の体長は80~100 cmとしており、漂着した雌雄の最小個体は、新生児であった可能性がある。

5. 謝辞

富山県高岡土木センター工務第二課海岸班、氷見市水産振興課には貴重な情報及び写真を提供頂いた。関係各位に心よりお礼申し上げます。

6. 引用文献

- 北陸朝日放送公式ページ, 2020. 4. 10. 圧巻 能登沖のイルカの群 輪島の漁師が撮影成功 2020. 4. 10放送.
<https://www.youtube.com/watch?v=a028a0EjIBE>.
 2020年 4 月29日閲覧.
- 岩崎俊秀, 1997. カマイルカ. pp. 410-413, 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (IV), 水産資源保護協会.
- 南部久男, 2009. 富山湾における鯨類の記録 (2008). 富山市科学博物館研究報告, (32): 115-116.
- 南部久男・山田 格, 2006. 富山湾における鯨類の記録 (2005年). 富山市科学文化センター研究報告, (29): 113-114.
- 南部久男・関 東雄・山田 格, 2015. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2014年). 富山市科学博物館研究報告, (39): 55-60.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2012. 富山湾における鯨類の記録 (2011年). 富山市科学博物館研究報告, (35): 103-105.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2013. 富山湾における鯨類の記録 (2012). 富山市科学博物館研究報告, (37): 109-110.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2017. 富山湾における鯨類の記録 (2016年). 富山市科学博物館研究報告, (41): 67-70.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2018. 富山湾における鯨類の記録 (2017年). 富山市科学博物館研究報告, (42): 65-67.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2019. 富山湾における鯨類の記録 (2018年). 富山市科学博物館研究報告, (43): 71-76.
- 南部久男・西岡 満・田中 豊・太田希生, 2003. 富山湾における鯨類・ウミガメ類の記録 (2002年). 富山市科学文化センター研究報告, (26): 145-147.
- 南部 久男・西尾正輝・田島木綿子・山田 格, 2019. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2019年). 富山市科学博物館研究報告, (44): 53-57.
- 南部久男・関 東雄・田島木綿子・山田 格, 2016. 富山湾における鯨類の記録 (2015年). 富山市科学博物館研究報告, (40): 99-101.
- 南部久男・稲村 修・田島木綿子・倉持利明・山田 格, 2002. 富山湾における鯨類 (Cetaceans) の記録 (2001年). 富山市科学文化センター研究報告, (25): 129-132.
- 南部久男・石川 創・山田格・台藏正一・大田希生, 2007. 富山湾における鯨類の記録 (2006年). 富山市科学文化センター研究報告, (30): 63-68.
- 南部久男・西岡 満・関谷伸一・山田 格・太田希生, 2004. 富山湾における鯨類の記録 (2003年). 富山市科学文化センター研究報告, (27): 75-78.
- 南部久男・関 東雄・真柄真実・山田 格・太田希生・藤田将人, 2011. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2010年). 富山市科学博物館研究報告, (34): 141-144.
- 南部久男・田島木綿子・新井上巳・山田 格・田中 豊・大田希生, 2005. 富山湾における鯨類の記録 (2004年). 富山市科学文化センター研究報告, (28): 91-94.
- 南部久男・田島木綿子・荻野みちる・倉持利明・山田 格・田中 豊, 2000. 富山湾氷見市の海岸に漂着したオットセイについて. 富山市科学文化センター研究報告 (23): 169-171.
- 南部久男・石川 創・山田格・田島木綿子・谷田部明子・台藏正一・大田希生, 2008. 富山湾における鯨類の記録 (2007年). 富山市科学文化センター研究報告, (31): 99-102.
- 南部久男・真柄真実・栗原 望・山田格・関東雄・台藏正一・石川雄士, 2010. 富山湾における鯨類の記録 (2009年). 富山市科学博物館研究報告, (33): 105-108.
- 関 東雄・南部久男・山田 格・石川 創, 2005. 富山湾の海上における鯨類の目撃記録. 富山市科学文化センター研究報告, (28): 113-122.